

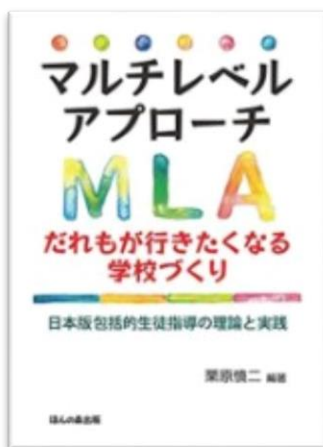
実践報告 市立札幌豊明高等支援学校

(1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくり等の研究」
～MLA マルチレベルアプローチ 包括的生徒指導の理論と実践研究～
○自他ともに尊重し、共に学び合い、思いやりのある生徒の育成

(2) 実践の内容

平成31年度（2019年度）4月、特別委員会を設置（「Mプロ」推進委員会：MLA マルチレベルアプローチ 豊明版包括的生徒指導プロジェクト推進委員会の略称。通称「Mプロ」。教頭を委員長とし、教務部長、研究部長、生徒指導部長、各学年主任など、総勢13名）。広島大学大学院教育学研究科教授・公益社団法人学校教育開発研究所（アイセス：MLAのeラーニングや教員免許更新講習等を提供）代表理事の栗原慎二先生が中心に進めるMLAをベースに、積極的・予防的生徒指導と予防的・開発的教育相談を統合的に行い、生徒の全人的成長を支えるための心理的発達と社会的発達を促し、すべての生徒の対人関係力の改善・ともに支え合う集団づくりにより「いじめ」や「不登校」を未然に防ぎ、性別や個人の特性の違いによる差別のない学校づくりをめざし、「MLA 豊明版包括的生徒指導」を試行導入し研究実践を進めた。



◆豊明版包括的生徒指導の基本的な考え方

MLA マルチレベルアプローチ～豊明版包括的生徒指導～ 試行導入に向けて

本校生徒の在学中のトラブルや卒業後の離職の原因として、コミュニケーション力の不足や感情理解不足によるものがあると考えます。例えば、自転車に乗れるようになるのは、何度も転びながらも実際に練習し技術を身に付けるからである。水泳も実際に水の中で練習して泳げるようになる。どちらも理論だけ頭に入っても実際にできるようにはならない。コミュニケーションや対人スキルも実際に何度も体験し身に付けるために、学校での具体的なプログラムの導入が不可欠である。社会構造の変化から、生徒が地域や家庭で自然と社会性を身に付けられる時代ではなくなっていることから、学校でプログラムを導入することが解決につながるのではないかと、そして、学校で一番多い時間は授業であり、教育課程の中に位置付けて計画的に指導することが本校生徒にとって重要であると考えた。

これまでの生徒指導は問題行動の後追い指導が圧倒的に多く、トラブルを回避するためにリアルな対人体験をさせないことを教師側が行ってきたのではないかと。人間関係から起こるトラブルはリアルな人間関係の体験によって習得した対人スキルを身に付けることが解決手段であり、自転車や水泳のように体験を通してしか身に付かない。生徒たちの将来の社会人としての自立つなげるために、失敗を成功のチャンスと捉え、支援することが重要ではないかと。

◆MLAプログラムの4つの柱

- ①SEL（社会性と情動の学習：Social and Emotional Learning）
- ②PBIS（ポジティブな行動介入と支援：Positive Behavioral Interventions and Supports）
- ③ピア・サポート
- ④協同学習

◆MLAを導く4つの理論

- ①ソーシャルボンド理論 ②欲求理論 ③行動理論 ④愛着理論

◆実施（または参加）した主なMLAに関わる教員研修

- 4/8 「PBIS研修」（1学年）
- 5/22 「SEL研修会」（1学年・有志）
- 5/31 「アセス研修会」
- 7/18 「MLA研修会①」
- 8/1 「いじめや不登校を未然に防ぐピア・サポートについて」
(ちえりあ 講師：栗原慎二先生 受講対象者：希望当選者参加)
- 8/2～7 教員一般研修・免許更新講習（かでの2・7 受講対象者：希望者参加）
 - 「教育の最新事情」（講師：金山健一先生）
 - 「子どもや保護者との信頼関係の築き方」（講師：栗原慎二先生）
 - 「ネットいじめ・SNS問題の現状と対応策」（講師：金山健一先生）
 - 「集団づくりと学級経営」（講師：金山健一先生）
 - 「子どもの豊かな感情と社会性を育む」（講師：金山健一先生）
- 8/5 令和元年度 豊明・みなみの杜夏季合同研修会（講師：栗原慎二先生）
「社会性を育む包括的生徒指導 ～MLAの概要と明日の教育を考える～」
- 8/6・7 総社市視察研修（2名）＜12/2・25の2日間、伝達研修＞
- 8/9 「いじめ問題や生徒の不適応行動の未然防止に向けて」
～今日から生かせる生徒指導のコツ～
(雨竜町公民館 講師：金山健一先生 4名参加)
- 11/2 「ピア・サポートを学ぼう！」
＜日本ピア・サポート学会オホーツク支部主催＞（3名参加）
- 12/3 「MLA研修会②」
- 1/6・7 「ピア・サポートトレーナー養成ワークショップ」
＜日本ピア・サポート学会北海道支部主催＞（5名派遣、2名個人参加）



◆MLAプログラムの試行導入計画

- 2019年度 全学年 アセス（学校適応感尺度）実施（年3回）
- 教育相談週間（年2回）
- 1学年 SEL実施（年間10時間）…3年間実施
- PBIS実施 …3年間実施
- （2・3年生は可能な範囲で実施）

※ピア・サポートについては生活委員会などで試行を図る



※協同学習については各教科で実施

<試行予定計画>	2019年度	2020年度	2021年度
1学年	アセス SEL PBIS	アセス SEL PBIS	アセス SEL PBIS
2学年	アセス	アセス SEL PBIS ピア・サポート	アセス SEL PBIS ピアサポート
3学年	アセス	アセス	アセス SEL PBIS ピア・サポート 協同学習

【実践①】SEL (Social and Emotional Learning 社会性と情動の学習)について

○ ねらい

自己の捉え方と他者との関わり方を基礎とした、社会性（対人関係）に関するスキル、態度、価値観を身に付ける。

○ 学習内容

- ・自己への気付き：自分の気持ちや価値（長所や短所）に気付く
- ・他者への気付き：他者の理解や共感を示す
- ・自己のコントロール：目標達成のために感情や行動をコントロールする
- ・責任ある意思決定：個人や社会的な行動に関して道徳的で建設的な選択をする
- ・対人関係：ポジティブな人間関係の形成、チームワーク、葛藤の効果的な対処。

○年間計画（2019年度 1学年 年10回）

- ① オリエンテーション「SELについて」（体育館 学年合同）
- ② 規範遵守「私たちの校則」（各クラス）
- ③ 自己・他者の感情理解「おこっているわたし」（各クラス）
- ④ 自己・他者の感情理解「いろんな気持ち・相手はどんな気持ち」（体育館 学年合同）

⑤ 伝達・協力・問題解決

「グループワークをしよう①～動物園の案内マップをつくろう～」(体育館 学年合同)

⑥ 伝達・協力・問題解決

「グループワークをしよう②～お祭りの夜店マップをつくろう～」(体育館 学年合同)



⑦ 携帯電話「顔の見えないコミュニケーション」

(体育館 学年合同)

⑧ 自己の感情理解「自分はどんな気持ち」（各クラス）

⑨ 自己制御「こころの信号機」

(体育館 学年合同)

⑩ 自己制御「ちょっと落ち着いて」

(各クラス)



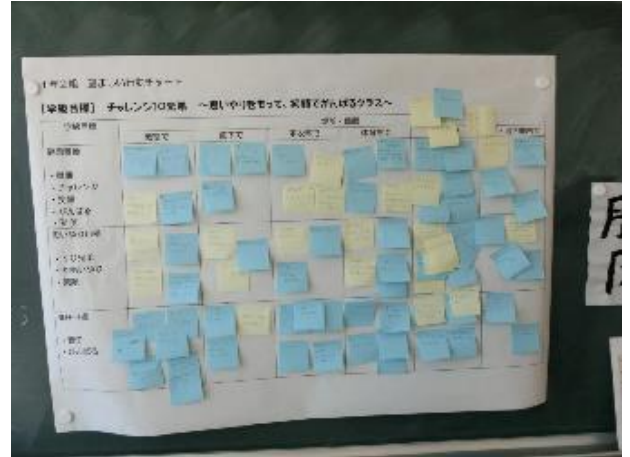
【実践②】 P B I S (Positive Behavioral Interventions and Supports ポジティブな行動介入と支援)について

○ ねらい

価値を具体的な行動レベルで示し、価値的行動を身につけさせ、望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす。

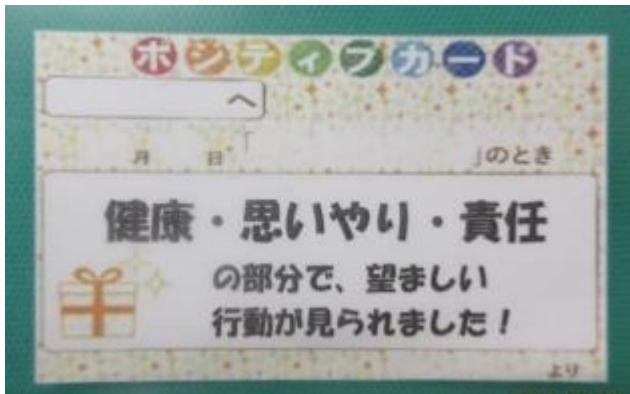
○ 学習内容

学校目標「豊かな心 強い体」から、思いやり・責任・健康の3つの価値を提示し、それらに基づいた具体的な行動を、生徒が主体となって決め（場所や場面ごとに、望ましい行動を生徒の意見で決める）、掲示し、ポジティブカード・グッドビハイパーカードやシールなどで即時に賞賛し強化する。

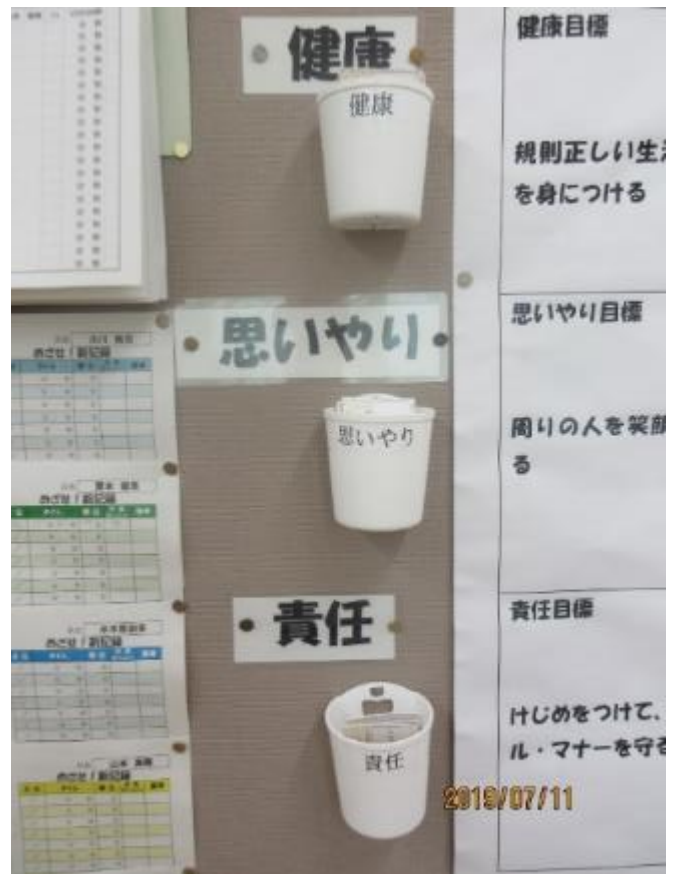


付箋に記入した生徒の意見

「ポジティブカード」



望ましい行動がみられた場合、生徒の名前、月日、場面を記入し、価値別に下の紙コップに入れていく。入れるのは、生徒や教師。帰りの会などで発表。一定枚数がたまると、お楽しみ会などのご褒美企画がある。



「good シール」



良い行動ごとに「good シール」を貼る

望ましい行動チャート

学級目標	場所・場面					
	教室で	廊下で	更衣室で	体育館で	トイレで	バス・地下鉄内で
健康目標	きちんと座る 体をこわさないようにする	歩くようにする 歩く あいさつをする	素早く着替える 汗をかいたら着替える 素早く着替える	体操をしっかり行う 適切に体を動かす あいさつをする	ゆづりあう 手を洗う ゆづりあう	時間通りに乗る 使いやすくする マナーを守る
規則正しい生活習慣を身につける	あいさつをする あいさつをする 静かに座る 歯をしっかりと磨く 常に正しい行動を意識する 姿勢を正す	水をたくさん飲む 歩く 歩く 歩く 歩く	入退室に失礼しませ 静かに素早く着替える 汗をきちんとふく しゃべらず急いで着替える 素早く着替える	安全に気をつける 真面目に走る 今よりも強い体を作るケガをしないさせないようにする	あいさつをする 手を洗う 手を洗う しっかりと手を洗う 手を洗いハンカチで拭く	静かにする 静かにする 行きたい時にトイレに行く リュックは下ろす 静かにする
思いやり目標	自分から話しかける みんなと仲良くする あいさつと会話をする やさしくする 会話をする 酷い言葉をセーブする クラスを支える 自分から声をかける	あいさつをする 歩くようにする あいさつをする やさしく話す 明るくあいさつをする 目上の人に自分からあいさつをする 丁寧に歩く 自分からあいさつをする	スペースをとりすぎない みんなが使いやすいようにする 静にする 自分のロッカーを開める 踊りつつ着替える 静かにする 一眼で着替える 素早く着替える	スペースをとりすぎない みんなが使いやすいようにする 周りに気を配る ケンカを売らないようにする しっかりと遊ぶ あいさつ運事をしっかりとする 力こぶを熱くさせる 色々なクラスの人と一緒に遊ぶようにする	ゆづりあう 汚さないようにきれいに使う ゆづりあう トイレトペーパーを正しく使う 踊る ドアをきちんとしめる 余計な話をしない あいさつをする	かばんを足元に置く みんなが使いやすいようにする マナーを守る 静かにする つめるか踊る マナーを守り静かにする しっかりと座る 小さい声で会話する 運転手にあいさつをする
責任目標	休憩と授業の区別をつける みんなと仲良くする 区別をつける あいさつをする 時間 came たら静かにする 授業では真面目モードに切り替える みんなをひっぱる 授業では気持ちを切り替える	しっかりと歩く あいさつをする 明るくあいさつをする あいさつをする 大宜で話さない ゆっくり歩き右側通行 しっかりと歩き挨拶する 走らずゆっくり歩く	人のロッカーをのぞかないようにする みんなが使いやすいように片付ける 着替えに集中する あいさつをする 静かに踊りつつ素早く着替える ドアを開める 洋服をしっかりとたむ 着替えを早くきれいに使う	ボールのルールを守る みんなが使いやすいようにする あいさつをする 安全に遊ぶ 真面目に取り組む 全力で遊ぶ 時間とボールのルールを守る	ゆづりあう キレイに使う 用を済ませたらすくすくに出でくる あいさつをする 静かにする ドアをきちんと開める ドアで遊ぶないようにする キレイに使う トイレトペーパーを適切に使う	しずかにする しずかにする マナーを守る 静かにする リュックやかばんを下す 寄り道しない スマホは OFF する 立っている時は手すりにつかまる 騒ぎ過ぎないように声のボリュームに気をつける 運転手の指示を聞く

【実践③】ピア・サポートについて

- ねらい
友達同士で支え合う力を育てる。
- 学習内容
・「友達のいいところを見つけよう」…各クラスで実施
・「朝一あいさつスタート月間」

＜あいさつのチェックポイント＞

- | | |
|-------------|----------|
| ① 自分から先に伝える | ② 明るく笑顔で |
| ③ 相手の顔を見る | ④ 場に応じた |



帰りの会で振り返り、達成度に応じて廊下のカレンダーにシールを貼る。

2学年の活動から生活委員会の活動へ拡大。

- ・「オープンスクール」…体験入学の中学生に仕事を教えるサポーター（2年生）
- ・朝の会、帰りの会、授業などで「アイスブレイク」を部分的・実験的に実施。

【実践④】協同学習について

○ ねらい

対人関係と真の学力を身に付ける。

○ 学習内容

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究授業を各教科で取り組み、日々の授業で実践する。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ SELやピア・サポート、PBISなど、あえて教師側から生徒に仕掛けることで、新たな活動やコミュニケーションの機会が増え、明らかに生徒の変容を感じることが出来、MLAの効果を実感できた。

(例)

SEL：感情理解の学習では、表情と感情を結び付けるのが苦手な自閉症スペクトラムの生徒が、朝の会や帰りの会で繰り返したトレーニングを続けたところ「先生、今日は機嫌が悪いですね」と顔の表情だけを見て発言した。また、「グループワークをしよう」では、授業中にミッションを達成できなかったグループの生徒が悔しがり、担任の先生に「悔しい、もう一回やりたい」と申し出をし、クラス担任が対話型のグループワークをいくつか独自開発して再挑戦した。

ピア・サポート：2学年でスタートしたあいさつ運動で、「今まであいさつしてくれなかった〇〇くんがあいさつしてくれました」と報告してくれたり、「僕らもあいさつ運動やらせてください」と他学年性が参加したり、あいさつに反応することが苦手な生徒が友達からの明るく熱心な関わりに対しニッコリ微笑んだり、など生徒の変容が多く見られた。あるクラスで、アイスブレイクの「あいこジャンケン」をやったところ、普段はネガティブ思考が強くて、人と関わるのが苦手で暗い表情がほとんどの生徒が、ジャンケンの輪に加わり、あいこになるための方策に誰よりも早く気づき、それを皆に伝えて賞賛を浴び、表情豊かに活動する姿が見られた。

PBIS：友達の良い行動について発表することで、望ましい行動をすると発表されて良い気持ちになり、さらに望ましい行動をしようという好循環が見られた。「〇〇しない」や「〇〇はダメ」と行った言葉ではなく「〇〇をする」や「〇〇をしよう」という言葉で考えようと伝えて取り組んだところ、望ましい行動が、行動レベルで具体的に分かるようになった。等々)

- ・ アセスによる生徒の学校適応感尺度の結果を踏まえたアセスメントと教育相談週間を実

- 施し、的確な支援のために役立った。
- 独自の校内研修の実施と、効果を実感した先生方の積極的な研修参加。
（MLAの校内研修を受けて興味を持ち、独自に外部の研修会に参加した先生等が、研修内容をクラスでどのように生かすか等教材研究を進め、他の先生と情報交流するなど、職員室でMLAに関わる先生方の会話や交流が増えた。また、ピア・サポートの研修会で学んだ対立解消メディエーションのやり方〈アルスの法則〉を実際の生徒の対立の解消に教師が使用し、普段は自分の非をなかなか素直に認めることが出来ない生徒が、自ら謝罪しお互い仲直りするなど対立を解消することが出来た。）
 - 生徒の変容はもちろんであるが、MLAを担当した教員の変化（成果）を実感した。MLAの試行導入をめざし教員研修を受けた結果、徒労感や疲労感が少しずつではあるが、達成感・充実感に変わった実感がある。

② 課題

- 教材研究時間の確保。
- 効果的な、教員研修の継続的な実施。講師の確保。
- MLAを行うための、校内組織作り。
- クラスや先生による取組の偏り。
- 学習した内容を、どのように日常の活動に結び付けるか。
- PBI Sなど、チケットやシールを配布することが目的化したり、マンネリ化しないか。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- MLAの導入は、プログラムを教育課程に位置付け、計画的・意図的に生徒に良質のコミュニケーションの機会を提供することで、すべての生徒の対人関係力の改善・ともに支え合う集団づくりにより「いじめ」や「不登校」を未然に防ぎ、性別や個人の特性の違いによる差別のない学校づくりを生徒と教師が一体となって推進する、まさに「人権教育」である。
- 『マルチレベルアプローチMLAだれもが行きたくなる学校づくり』（栗原慎二 編著 ほんの杜出版）や岡山県総社市の教員研修では、効果が表れる研修時間の閾値を、概ね一般教員で年間30時間、担当者・ミドルリーダー・管理職で年間60時間と設定している。本校では、どう工夫すればMLAを導入できるかを以下のように考えた。
◇特別支援校である本校は、MLA関連研修の特別支援に関わる研修については、悉皆としない。また、現在、すべての授業でTT、クラスも常に担任・副担任の複数で指導しているので、チーム支援の形が整っている。以上のことから、本校のMLAに関する一般教員研修は、年間約20時間と設定。校内研修しか受講できなくても、2年でMLA全体の内容を網羅できるようにした。さらに、MLA担当者や学年主任などのミドルリーダーは任意研修で、出来るだけ多くの研修を受けられるようにすることで、MLAの導入が可能と判断した。

<校内研修>

- SEL研修…0.75h
- PBIS研修…0.75h
- アセス研修…0.75h
- MLA研修①…1.5h
- MLA研修②…0.75h
- 夏休みの研修…3h
- 冬休みの研修…3h

計10.5時間

<任意研修（各自申し込み参加）>

- 教育センター「ちえりあ」での1日研修（ピア・サポート）…6h
- アイセス提供の免許更新講習
（会場：かでの2・7 一般研修でも受講可能）…6h×5日間=30h
- 「ピア・サポートを学ぼう！」（オホーツク支部）…5.6h
- ピア・サポートトレーナー養成ワークショップ（北海道支部）…13.5h

計55.1時間

必修研修と任意研修を合わせた総合計 65.6時間

- ・MLAは、教員研修時間の確保など大変に感じるかもしれないが、中身自体は今まで教育現場でやっていたことがほとんどである。体系的な枠組みの中で包括的に行うことを教員が共通理解のもと行うことで効果があると思う。

MLAは1つのパッケージになっているので、理解さえすれば導入可能であると思う。本校では、2年間でMLAの全体が網羅できるような研修を考えているが、小学校や中学校であれば、3年間でMLAの全体を網羅する研修を組むことも可能ではないかと思う。そして、札幌の多くの学校でMLAの研究・実践を行うことを期待したい。

